Okuyama Consevation National Trust Newsletter

トラストだより 32号

公益財団法人奥山保全トラスト　会報　Vol.32/2025.1.1

２０２４年追加で購入した広島県トラスト地（4ha）の調査（２０２３年４月撮影）

迎える 20 年目　運動のさらなる広がりをめざして

福寿草の花がひと足早く春の訪れを告げる頃となりました。皆様におかれましては、お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

2024 年は年明けに能登半島地震、航空機が衝突炎上という痛ましい事故が発生、我が国の首相選挙、米大統領選挙の年でもあり激動の一年となりました。そのような中ではありますが、当財団は、2023 年に取得した広島県廿日市市吉和トラスト地の周辺地域（4ha）を取得することができ、所有する山林は全国 22 ヶ所、2,539 ヘクタールになりました。皆様の温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。2023 年契約時の山主の方が信頼くださり、他の森も当財団に託したいと言っていただき、さらに地元の協力者からの支援もあり、新規トラスト地の取得が実現しました。トラスト地の取得は、人と人との結びつきや信頼関係こそ基礎であることを実感しました。

2025 年度、本財団は 20 年目を迎えます。今年度も新規トラスト地取得に向け精力的に動くと共に、所有するトラスト地を地元支援者と協力しながらできる限り見てまわり、動植物の生態や調査の結果、また人との関りを貴重な資料や情報としてまとめて、皆様にお届けして参ります。豊かな生命あふれる奥山を開発・荒廃から守るために、次の 10 年、20 年を見据えた全国規模のナショナル・トラスト運動へと広げるべく尽力します。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長　米田真理子

当財団の活動にご賛同いただき、支えてくださる会員様を募集しています。
活動を広げていくために、ご支援・ご寄附をお願い申し上げます。

ホームページから
お願いします。

https://www.okuyama-trust.org/**ご入会-ご寄附**/

※太字部分は日本語入力です。

財団所有トラスト地 全国２２か所
合計面積 2,539ha

～森を守り、水を守り、命を守る～　公益財団法人奥山保全トラスト
〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町 1-4 熊森ビル 3 階
電話・FAX 0798-34-0980

11月10日 第10回トラスト地ツアー報告

京都府京北トラスト地でツアーを開催しました。参加者は、東京、茨城、愛知、大阪、兵庫、京都から来てくださった方々とスタッフの計24名です。

まずは、2006年購入から18年、皆伐地だった場所が森に戻りつつある京北トラスト地（16ha）をご案内。協力団体である日本熊森協会京都府支部の方々が植樹し、苗木をシカが食べてしまわないように試行錯誤して様々な防除対策を実践し、木を育ててくれました。こうして大きく育ったオニグルミやナラガシワが入口で参加者の皆様をお出迎え。クマハギやクマの糞もみつけたりしながら歩きました。

北川誠司さん

子グマが自動撮影カメラに写った場所とその映像を皆で見た後、日本熊森協会前京都府支部長の北川誠司さんより、京都府のクマがたくさん捕殺されている状況や、クマと共存する京都府にするためクマ生息地をまわったり行政を訪問していることをお話いただきました。

生命の神秘ー巨木！台杉を見学

午後、日本熊森協会の顧問で地元在住の主原憲司先生にも同行いただき、片波川源流域京都府自然環境保全地域の台杉群生地を見に行きました。ここでは、北山林業の営みの中で作られてきた独特な「台杉」の巨木群を見ることができます。巨大杉に、様々な種の木が集う姿に生命の神秘を感じます。参加者の方々も「屋久島に行かなくても、古都京都の近くで、このような巨大なスギが見られるなんて」と感動しきり。一方で、台杉群生地は、下草がなく歩きやすい場所でしたが、かつてはササなどの下草が繁茂して、地面は見えなかったという事実も。地球温暖化が原因で積雪が減ったためササに凍害が起き、一斉に枯れてしまったのです。また、トラスト地内でも植樹木は育っているが、天然更新の低木はアセビやシキミ、ユズリハなどシカが食べないものばかりが育っているという現状も知っていただきました。参加者からは、非日常の景色に感銘をうけただけでなく、日本の森が危機的状況になっていることも認識できたというご感想をいただきました。

主原先生に説明を受ける参加者

巨木の台杉をバックに

三重県大台町長訪問

三重県大台町には清流として知られる「宮川」があり、その源流域に位置するのが、父ヶ谷トラスト地（268ha）、池ノ谷トラスト地（408ha）です（2010年購入）。上瀬ひろみ大台町議会議員と日本熊森協会三重県支部の働きかけで、９月24日、大台町長を訪問できることになりました。森山評議員、今井事務局長、熊森協会三重県支部の池添友一さん、三浦通澪湖（ともこ）さん４名で大台町役場を訪れました。大森正信大台町長、西尾真由子副町長、町の担当課の方々、三重県森林管理署署長はじめ職員の方々と面談し、大台町の父ヶ谷の奥に広がる1500haの広大な久豆（くず）国有林と大杉谷国有林（どちらもスギ・ヒノキの人工林になっている）の今後について話し合いました。

大台町役場で面談

大台町で開催の講演会でパネリストとして参加！

１０月２８日、日本熊森協会三重県支部主催の講演会「安藤誠の世界」でパネルディスカッションが行われ、米田理事長もパネリストとして参加、大台町の水源の森のすばらしさ、保全の重要性について地元の方々と意見交換しました。

奥は元の自然の山に

大台町で生まれ育ってこられた町長は自然をよく理解しておられ、奥山は自然の森に戻してほしいと話され、ダムができたことによって清流が壊されてしまったと嘆いておられました。また、当財団が池ノ谷や父ヶ谷を購入したこともありがたいとおっしゃってくださいました。町と共にこの宮川源流域を守っていきます。

最後は町長と握手をして記念撮影